

お年寄りの生活サポート

山陽新聞岡山東販売株式会社洲崎販売センター 所長 高谷将美

地域の人々のSOSに即対応 高齢者の生きがいの場作り

■実施期間

平成11年～

■実施地域

岡山県岡山市（南部）

■活動概要

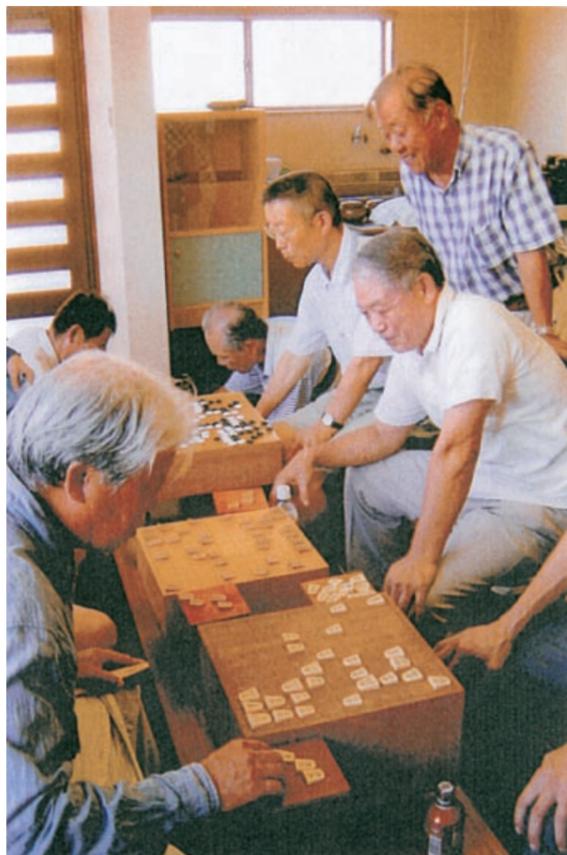
山陽新聞洲崎販売センターの所長、高谷将美さんは、平成11年から、地域住民とのふれあいの中で、不自由な思いをしているお年寄りの力になりたいという思いから、ボランティアで生活サポート（支援）を行っている。

活動は24時間体制で「困ったことがあれば、いつでも電話を」と、電話一本（不在の場合は携帯電話に転送）で対応、足の不自由なお年寄りを車で病院へ送り届けるなどの世話をしている。

また、販売センター店舗裏に自費でミニ図書館を併設、毎週土曜日の午後には、囲碁・将棋会場として開放しており、お年寄りにとってはふれあいや交流、生きがい作りの場ともなっている。

*

高谷将美（たかや・まさみ）



「次の一手は…」高谷所長（右）が見守る中、真剣に盤上を見つめるお年寄り。囲碁・将棋はお年よりの生きがいのひとつにもなっている。（写真は7月21日撮影）

■主な事例

事例①	「体調が悪くなり娘のところへ行きたい」と申し出てきたお年寄りを倉敷市水島まで送り届けた。
事例②	「家の電球が切れて困っている」と連絡してきた足の不自由なお年寄り宅の電球交換に駆けつけた。
事例③	「主人が入院しているが、病院へ行く足がない」と言うお年寄りを病院まで送り迎えした。



生活支援をしている足の不自由なお年寄りを病院へ送り届けようと乗車の介護をする高谷所長（中央）。主人が病院へ行くのを安心して見送る奥さんも思わず目を細める。（写真は7月27日撮影）



洲崎販売センターに併設されているミニ図書館は毎週土曜日の午後には囲碁・将棋会場に早変わり。高谷所長（中央）が見守る中、楽しいひと時を過ごすお年寄り。相手がいない時には本棚から好みの本を取り出して読書を楽しむこともできる。お年寄りにとっては相互のふれあい・交流の場ともなっている。（写真は7月21日撮影）

こどもに夢を贈る献本運動・敬老の日思い出写真プレゼント

南日本新聞真砂販売所 所長 福永博司

親子二代で 地域密着・読者還元事業を展開

■実施期間

献本運動は平成3年～
写真プレゼントは昭和63年ごろ～

■実施地域

販売店管内にある鴨池小学校と地域敬老会

■活動概要

南日本新聞真砂販売所の所長、福永博司さんは、約20年前から「敬老の日思い出写真プレゼント」を始め、また、平成3年からは、先代所長である父・純雄氏の時代から続く「読者還元事業」の一環として、販売所エリア内にある鴨池小学校へ毎年1回、5万円相当の図書を送っている。

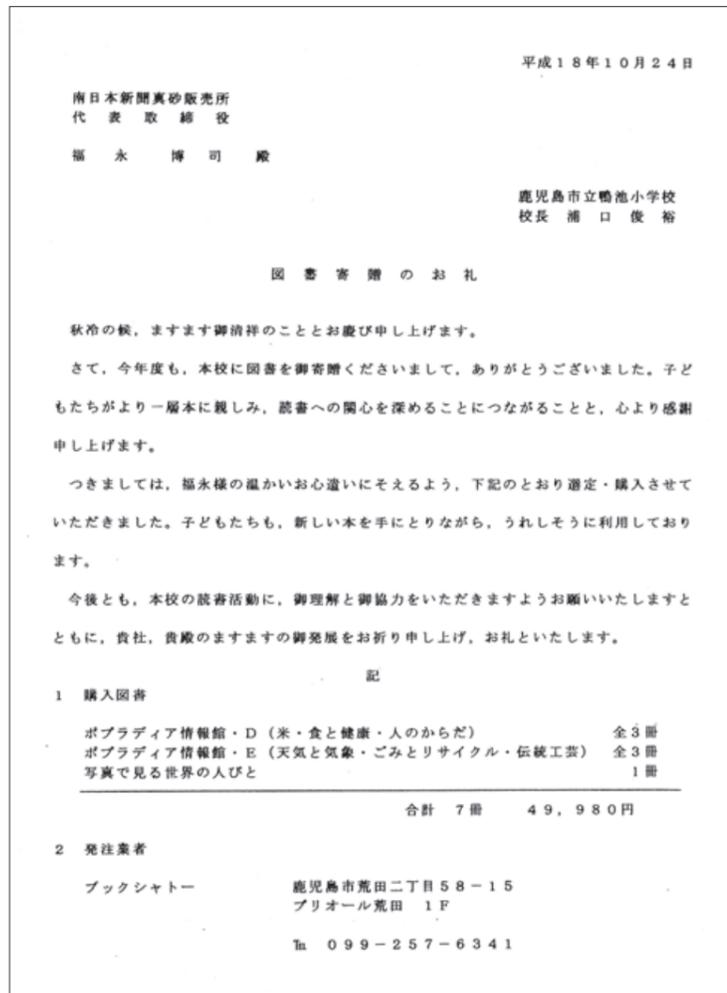
写真プレゼントは、販売所エリア内にある2つの敬老会で、南日本新聞読者、未読者にかかわらず参加者全員の写真を撮影し、台紙に張ってプレゼントしている活動で、恒例行事として認知度が高い。

この活動が高齢者向けであるのに対して、少子化が進む子どもたちへのプレゼントが、献本運動である。平成19年で18回目となり、同小学校へ贈った図書は延べ400冊（100万円相当）に上っている。

写真プレゼントは、毎年敬老の日を迎えられた記念として感謝され、献本は児童や父兄、先生方にとても喜ばれている。

*

福永博司（ふくなが・ひろし）＝昭和35年2月生まれ。平成4年10月から真砂販売所（主任2人、配達員約30人）を創業者である父から引き継いだ。地域密着をモットーに、平成19年から鴨池中学校PTA会長を務めている。



平成18年10月、鴨池小学校から真砂販売所に届いた図書寄贈のお礼文書。

■主な寄贈図書

- 「棕鳩十えぶんこ (全24)」
- 「動物飼育図鑑 (全7)」
- 「自然の観察事典 (全20)」 など



高齢者へ贈呈される台紙付き写真。



プレゼントされた写真を見て喜ぶ参加者。受付が済んだ方から順にデジタルカメラで撮影し、敬老会の昼食時に手渡して贈っている。



鴨池小学校の図書館内に設けられた「まっかぜ文庫」で本を読む児童。真砂販売所が献本運動を続けるきっかけとなった児童文学の棕鳩十氏の写真も飾られている。